

算数科学習指導略案

4年2組 31名 指導者 沢村優治

本授業では、以下の検証を行うものである。

「子どもと進める算数」で、子どもの参画意識が高められ、学習内容を理解することができたか。

1 題 材 1けたでわるわり算

2 指導計画 (総時数10時間)

小題材	主な学習活動【評価規準の重点観点】	時間
筆算 ①	1 除法の場面を式に表し、計算の仕方として筆算形式を理解する。 【考：除法の筆算の仕方を、具体的な場面と結び付けて説明している。】	1
わり算 ② ③	2 繰り下がりのない(2位数)÷(1位数)の計算や繰り下がりのある(2位数)÷(1位数)の計算の仕方を考える。 【考：既習の除法の計算の仕方をもとにして、繰り下がりのある(2位数)÷(1位数)の計算の仕方を考えている。】	1
	3 筆算の仕方を知り、説明することができるようになる。 【考：筆算の仕方を、除法の具体的場面と結び付けながら、筋道を立てて説明している。】	1
	4 あまりのある除法や商に0がたつ除法の筆算の仕方を考える。 【技：(2位数)÷(1位数)の筆算ができる。】	1
	5 (3位数)÷(1位数)の計算の仕方を考えたり、商が3位数になる場合の計算を考えたりする。 【考：筆算の仕方を、除法の具体的場面と結び付けながら、筋道を立てて説明している。】	2 (本時)
の計算 ④ ÷ ① けた	6 (3位数)÷(1位数)で商が2位数になる場合の計算をする。 【知：(3位数)÷(1位数)=(2位数)の筆算の仕方を理解している。】	1
	7 (3位数)÷(1位数)で商に空位がある場合の計算をする。 【知：商に0が立つ筆算の効率的な処理の方法を理解している。】	1
筆算 ⑤	8 問題場面を絵やテープ図からよみ取り、立式する。 【考：絵や図を手掛かりにして、乗法や除法の演算決定をしている。】	1
筆算 ⑥	9 既習事項の理解を深める。【知：題材を振り返り、分かったことをまとめている。】	1
	10 既習事項のまとめや確かめをする。【技：問題文を式に表すことができる。】	

3 本 時 (6/10)

(1) 目 標

(3位数)÷(1位数)の計算の仕方を理解し、筆算で計算できるようにする。

(2) 評価規準

筆算の仕方を、除法の具体的場面と結び付けながら、筋道立てた説明の仕方を考えている。

【数学的な考え方】

(3) 指導に当たって

「つかむ・見通す」過程では、学習課題を提示する際、課題を把握するために分かっていることやみんなに聞いていることを確認したり、課題場面を想像し、色紙の絵や図で場面を表したりしながら、演算決定をしやすくしていく。また前時で百の位がわり切れるわり算の筆算を学習していることから、前時と本時との違いに気付かせ、学習問題を焦点化していく。さらに、(2位数)÷(1位数)のときにも十の位がわり切れなかったことを想起させ、見通しをもちやすくしていく。

「見つける」過程では、グループ学習で積極的な意見交流ができるように、自力解決の時間やペアでの交流の時間をしっかり確保していく。また、机間指導する際には、根拠を明らかにして説明できるように声掛けしていく。ペア学習では、お互いの意見を尊重して意見のよいところに気付くようにしていく。グループ学習では、お互いの意見を出し合いながら、共通点を見つけ出し、グループの意見としてまとめていくようにしていく。その際、(2位数)÷(1位数)の筆算の仕方を想起して、余った数を次の位に繰り下げてわり算しようとしている子どもを称賛し、解決への糸口が見つからない子どもへのヒントとなるようにしていく。

「磨き合う」過程では、筆算の仕方を説明する活動をしていく中で、具体物と関連付けて説明できるようにしていく。また、(2位数)÷(1位数)の筆算の仕方の繰り返しであることに気付かせ、被除数が増えたと大きくなって繰り返して計算できそうだという発展的な見方ができるようにしていく。

「振り返る」過程では、説明できた筆算の仕方が生かせる練習問題を用意し、答えが出せるようになるだけでなく、再度、説明する場を設けることで、筆算の順序を確実に身に付けさせていく。

過程	時間	形態	主な学習活動と指導の手立て・評価	教材等	
つかむ・見通す	10	みんな	<p>1 学習課題を受け止め、解決の見通しを話し合う。</p> <p>536まいの色紙を、4人で同じ数ずつ分けます。1人分は、何まいになるでしょうか。</p> <p>〔分かれていることやたずねていることは何か。〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 筆算で計算できそうぞ。 今までのわり算の筆算と違うところはどこかな。 500÷4は余りが出るぞ。 	<p>前時までにどんな学習を行ってきたかを思い起こすことで、本時で同じような考えを活用できることに気付かせていく。</p> <p>前時と違うところに気付かせることで、学習問題を焦点化し、見通しをもちやすいようにしていく。</p>	<p>条件不足の学習課題のカード</p> <p>536枚の色紙カード</p>
			<p>2 学習問題をつかむ。</p> <p>百の位がわり切れないわり算の筆算は、どのようにすればよいのだろう。</p> <p>キーワード わった余り</p>	<p>立式する際、大まかに答えがどれくらいになるか予想できるようにしていく。また、その根拠を説明できるようにしていく。</p>	<p>キーワードカード</p>
見つける	5	一人で	<p>3 司会者が中心となって学習の流れを確認し、自力解決を行う。</p> <p>〔どこから計算していけばよいのかな。〕</p> <ul style="list-style-type: none"> わられる数が2けたの時は、十の位からわっていったぞ。 	<p>問題解決を行うにあたっては、司会者と事前に授業の進め方の確認をしておき、円滑に進めることができるようにしておく。</p>	<p>教科書ノート</p>
			<p>4 自分の考えや思いをペアやグループで発表し合う。</p> <p>〔Aくんの意見は僕と一緒にだ。〕</p> <ul style="list-style-type: none"> Bくんの説明は分かりやすいな。 百の位の数をわったら余りが出たよ。どうしたらよいかな。 そういえば、わられる数が2けたのわり算でも割り切れないことがあったね。同じやり方でできるね。 	<p>ペアやグループで話し合う際には、話し合う視点を明確にして話し合わせ、グループ学習では、グループの意見として、司会者を中心としてまとめていくようにしていく。</p>	<p>司会者カード 発表ボード</p>
磨き合う	15	みんな	<p>5 グループでまとまった考え方を発表し合い、それぞれの考え方を交流し、筆算の仕方についてについて話し合う。</p> <p>〔Cさんのグループの意見は私たちのグループと一緒に考えだ。〕</p> <ul style="list-style-type: none"> Dくんのグループの説明は、やりながらの説明で分かりやすいな。 なるほど。なぜ百の位からわっていけばよいか分かったぞ。 この数は図の中でいうとこのことだな。 	<p>※ 筆算の仕方を、除法の具体的場面と結び付けながら、筋道を立てて説明しようとしている。</p> <p>(活動の様子、ノート)</p> <ul style="list-style-type: none"> 説明できている子どもには、できていることを価値付けし、みんなが分かる説明ができるように声掛けしていく。 説明できていない子どもには、具体物と筆算を一つ一つ対応させながら個別指導していく。 	<p>司会者カード</p>
			<p>6 司会者が意見をまとめる。</p> <p>わられる数が3けたのわり算の筆算は、百の位から計算し、余ったら次の位と一緒に計算するとよい。</p>	<p>キーワードをもとに子どもたちの考えを称賛し、関連付けながら、教師と一緒に一般化を図るようにしていく。</p> <p>速く計算できた子どもには、筆算の仕方を説明させることで本時の学習の定着を図っていく。</p>	<p>教科書</p>
振り返る	5	みんな	<p>7 P.49の 3 の問題をする。</p> <p>8 本時の学習を振り返る。</p>		